

武蔵野市子ども・子育て支援に関する アンケート調査報告書【概要版】

1 調査の概要について

(1) 調査実施の背景と目的

0～18 歳までの子どもに関わるすべての施策・事業を体系的に盛り込み、計画的に進めていくため、子ども・子育て支援法に定められた「市町村子ども・子育て支援事業計画」を包含した「第五次子どもプラン武蔵野（平成 32（2020）年度～平成 36（2024）年度）」の策定準備を進めている。

本調査は、「第五次子どもプラン武蔵野」を策定するための基礎資料として、教育・保育・子育て支援等の子育て支援サービスに関する利用者の意向、生活実態、サービスの量的・質的ニーズを把握することを目的に実施したものである。

(2) 実施概要

本調査は、平成 30 年 7 月の武蔵野市の住民基本台帳に基づき、下表に示したそれぞれの対象データから無作為に抽出し、同年 10 月に郵送配布・回収した。配布数、有効回収数、有効回収率は下表のとおり。

対象（対象児童について保護者が記入）	調査票種類	配布数	有効回収数	有効回収率
平成 30 年 4 月 1 日現在で未就学の児童及び 平成 30 年 4 月 2 日～7 月 31 日に出生した児童	未就学児童 保護者用	1,400 票	768 票	54.9%
平成 30 年 4 月 1 日現在で小学生の児童	小学生児童 保護者用	1200 票	682 票	56.8%

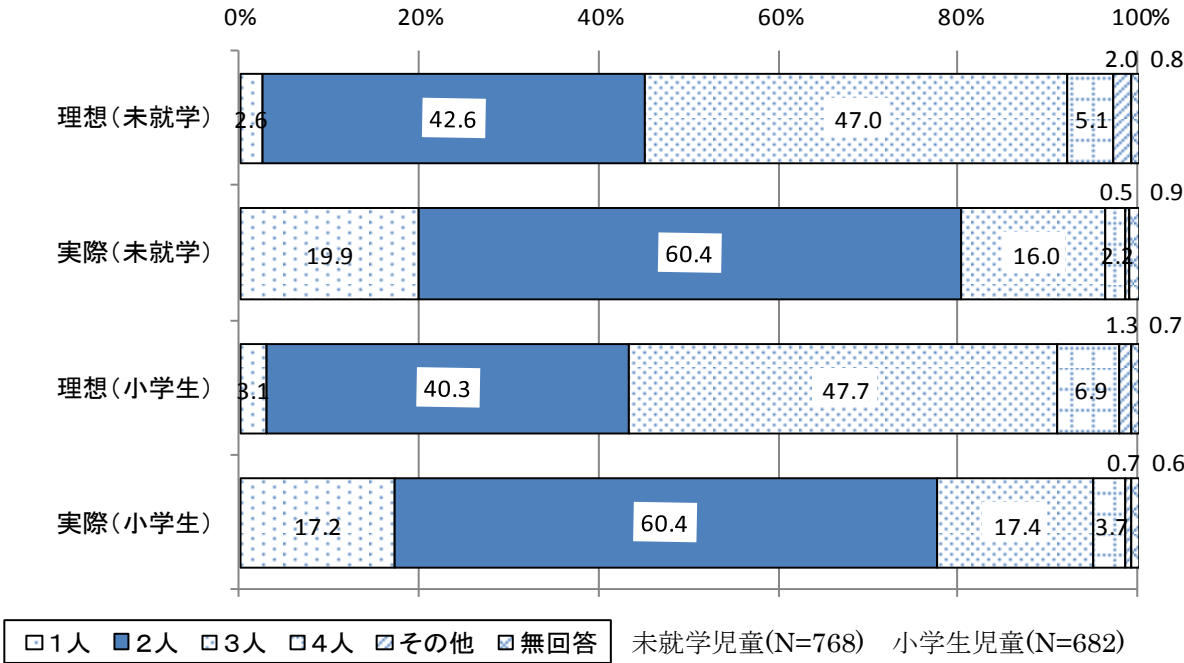
2 調査結果について

(1) 理想的な子どもの人数、実際に育てられると思う子どもの人数、その理由

① 理想と実際に育てられると思う子どもの人数

理想的な子どもの人数について見る。「3 人」（未就学児童 47.0%、小学生児童 47.7%）が最も多い。一方、実際に育てられると思う子どもの人数では「2 人」（未就学児童、小学生児童ともに 60.4%）が最も多い。

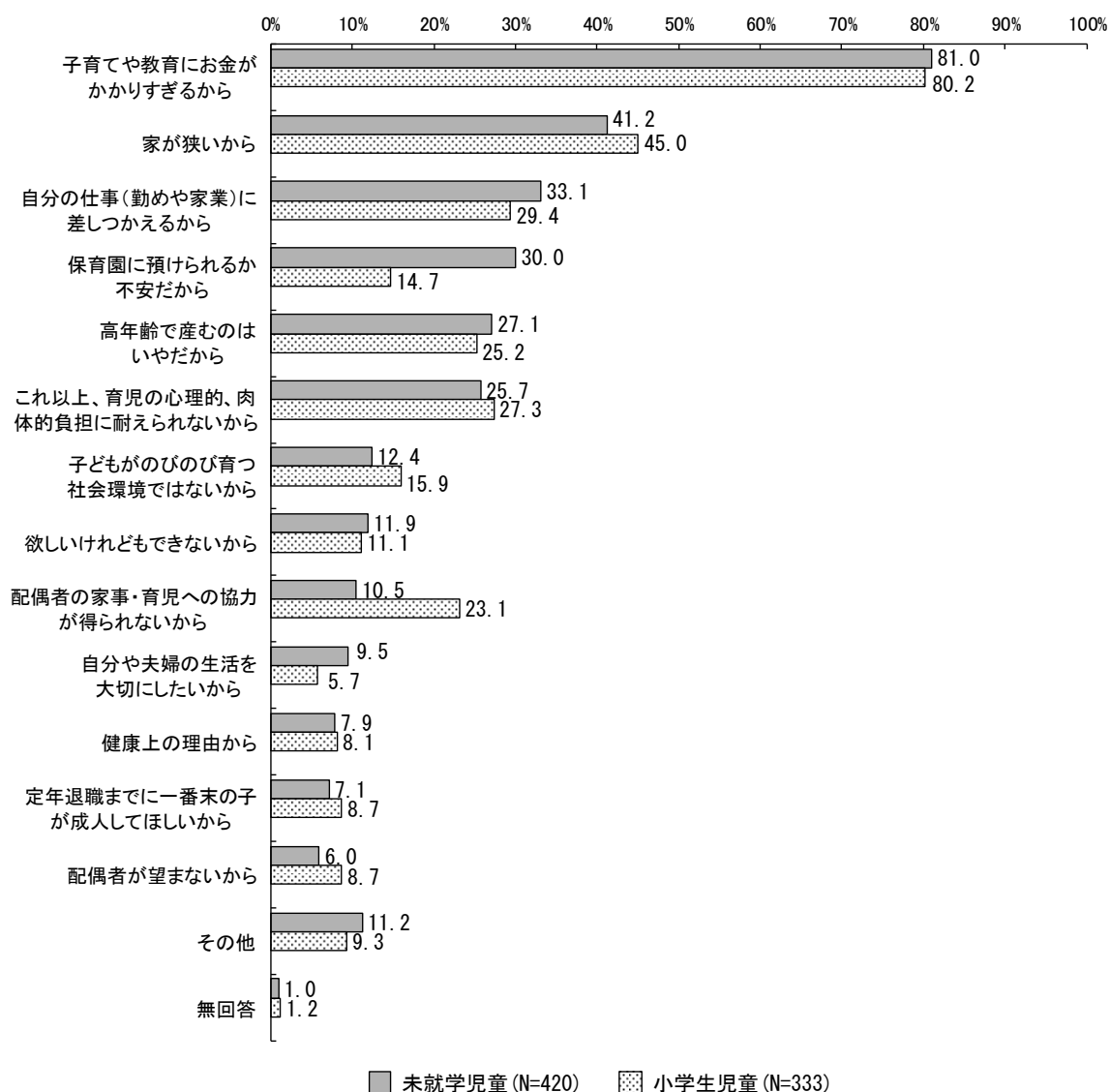
＜理想と実際に育てられると思う子どもの人数＞



② 実際に育てられると思う子どもの人数が、理想とする子どもの数より少ない理由（複数回答）

実際に育てられると思う子どもの人数が、理想的な子どもの人数より少ない理由について見る。「子育てや教育にお金がかかりすぎるから」が未就学児童（81.0%）、小学生児童（80.2%）ともに最も多い。ついで「家が狭いから」（未就学児童 41.2%、小学生児童 45.0%）、「自分の仕事（勤めや家業）に差しつえるから」（未就学児童 33.1%、小学生児童 29.4%）が続いている。

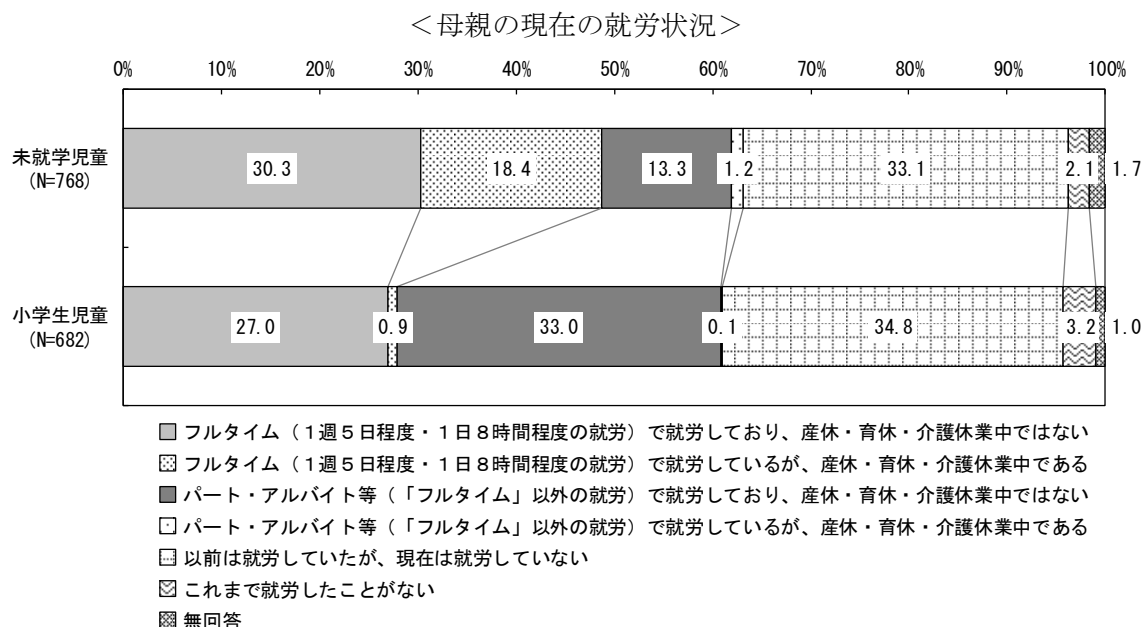
<実際に育てられると思う子どもの人数が理想とする子どもの数より少ない理由（複数回答）>



（２）父母の就労状況

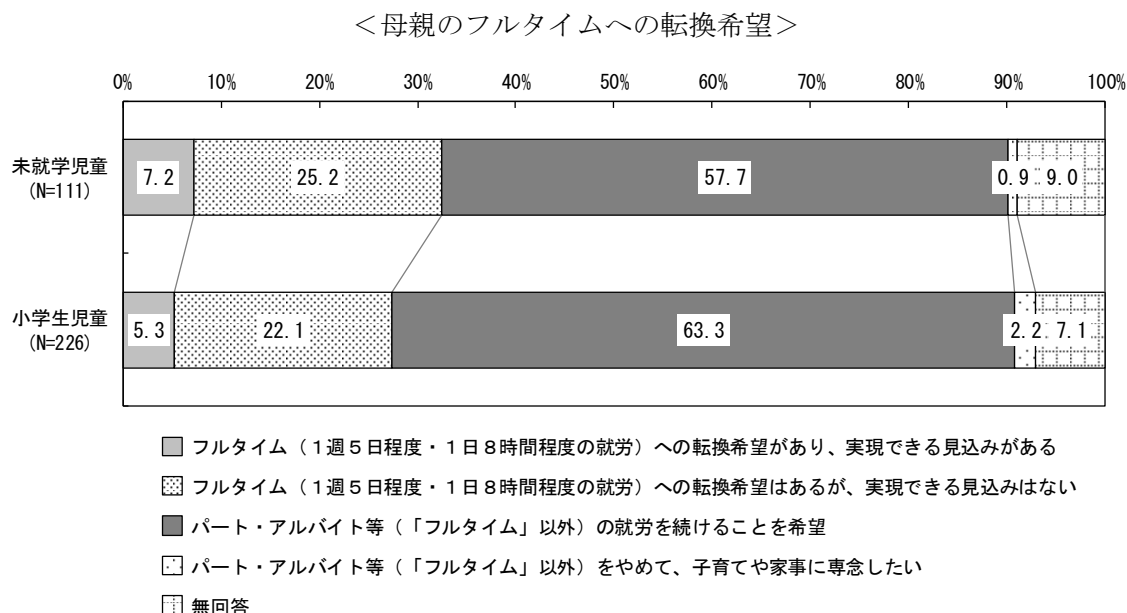
① 母親の現在の就労状況

母親の現在の就労状況について見る。「以前は就労していたが、現在は就労していない」が未就学児童（33.1%）、小学生児童（34.8%）ともに最も多い。ついで未就学児童は「フルタイムで就労しており、産休・育休・介護休業中ではない」（30.3%）、小学生児童は「パート・アルバイト等で就労しており、産休・育休・介護休業中ではない」（33.0%）が続いている。



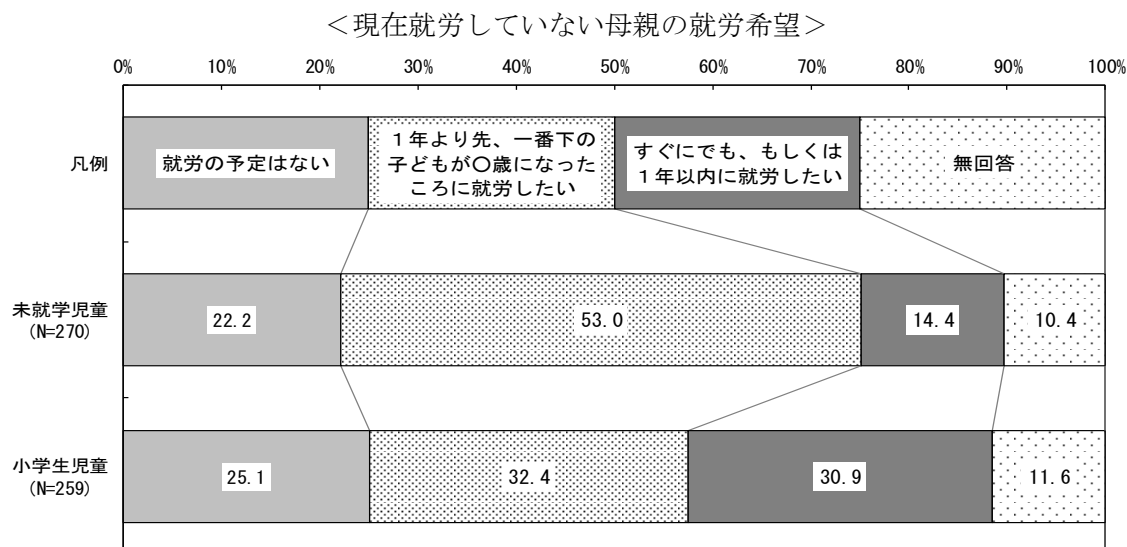
② 母親のフルタイムへの転換希望

母親のフルタイムへの転換希望について見る。「パート・アルバイト等の就労を続けることを希望」がともに最も多い（未就学児童 57.7%、小学生児童 63.3%）。



③ 現在就労していない母親の就労希望

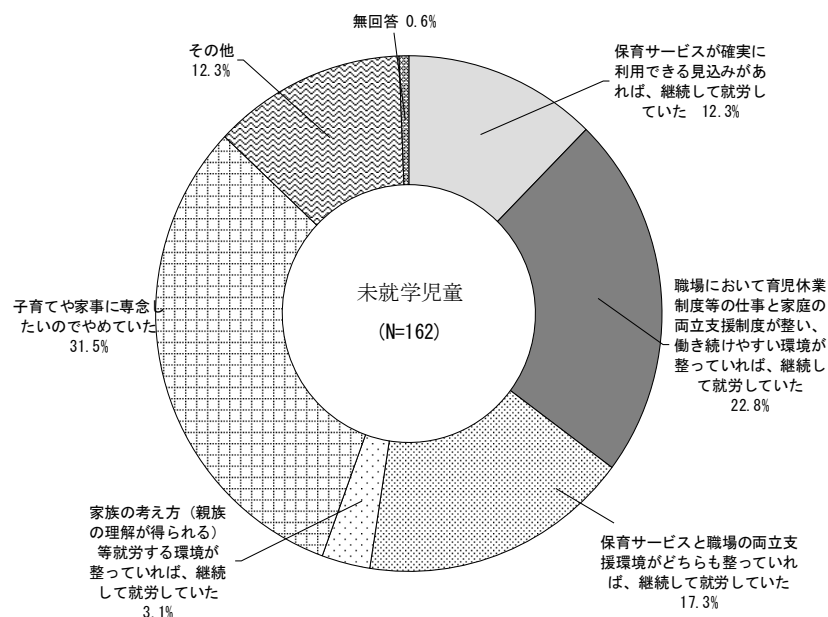
現在就労していない母親の就労希望については、未就学児童、小学生児童の母親ともに「1年より先、一番下の子どもが〇歳になったところに就労したい」が最も多く、それぞれ53.0%、32.4%となっている。また、「1年より先、一番下の子どもが〇歳になったところに就労したい」と「すぐにでも、もしくは1年以内に就労したい」を合わせた就労希望は、未就学児童の母親で67.4%、小学生児童の母親で63.3%となっている。



④ 離職者の就労継続可能性とその条件（出産前後に離職した方）

離職した未就学児童の母親の就労継続の可能性とその条件は、「子育てや家事に専念したいのでやめていた」が31.5%と最も多い。なお、「保育サービスが確実に利用できる見込みがあれば、継続して就労していた」、「職場において育児休業制度等の仕事と家庭の両立支援制度が整い、働き続けやすい環境が整っていれば、継続して就労していた」、「保育サービスと職場の両立環境がどちらも整っていれば、継続して就労していた」、「家族の考え方（親族の理解が得られる）等就労する環境が整っていれば、継続して就労していた」を合わせた「条件が整っていれば継続して就労していた」の割合は55.5%である。

＜離職者の就労継続可能性とその条件（出産前後に離職した方）＞

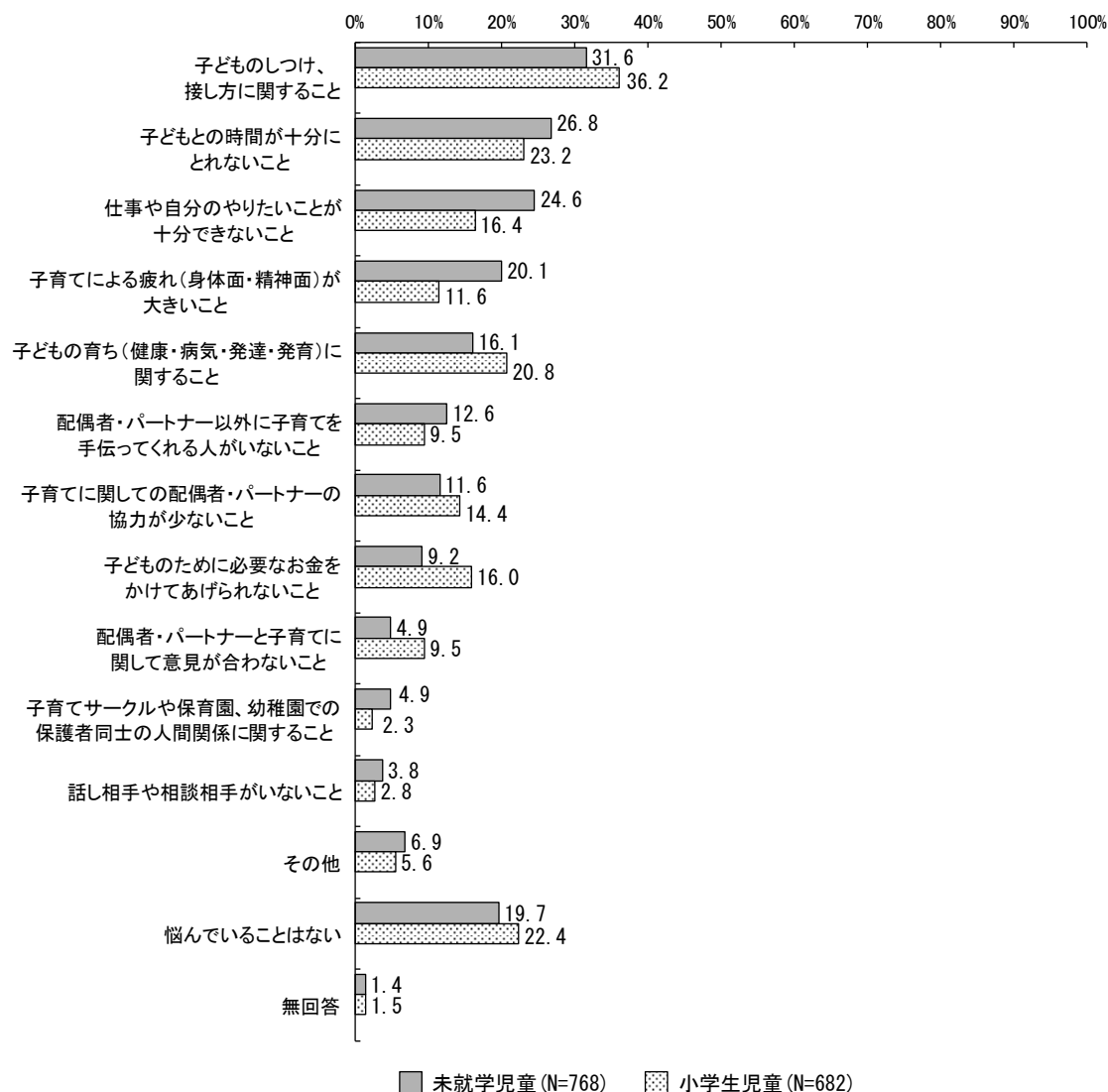


（３）父母の子育て不安感（複数回答）

子育てに関して悩んでいることや気になることは、未就学児童、小学生児童の保護者ともに「子どものしつけ、接し方に関すること」が最も多く、それぞれ 31.6%、36.2%となっている。ついで「子どもとの時間が十分にとれないこと」がそれぞれ 26.8%、23.2%となっている。

なお、「悩んでいることはない」は、未就学児童、小学生児童の保護者ともに 2 割程度となっている。

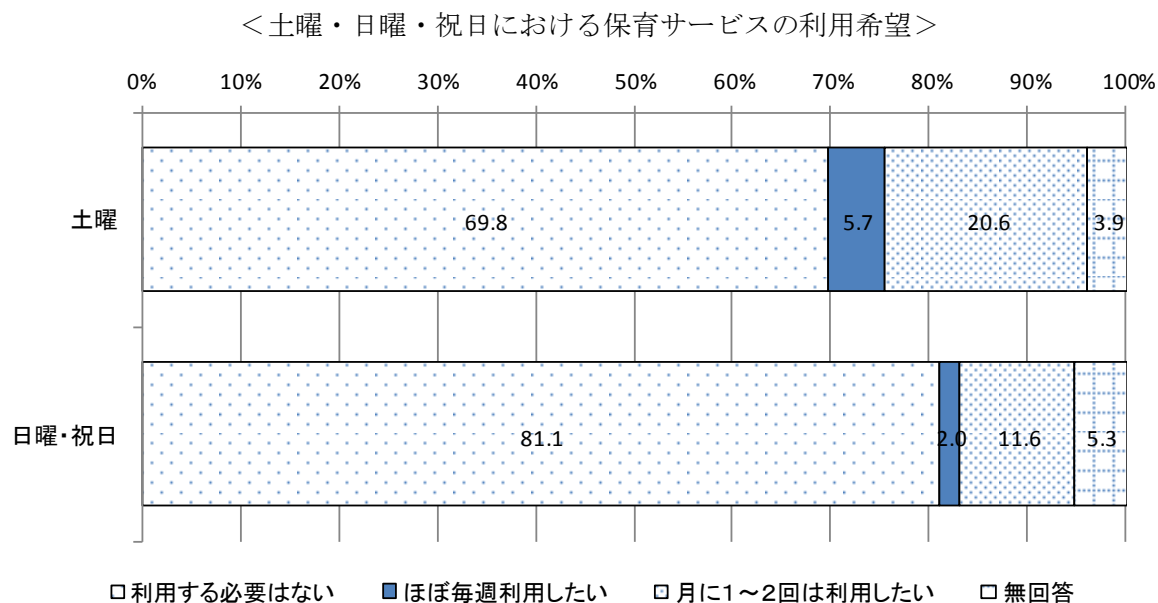
<子育てに関して悩んでいることや気になること>



（４）休日の保育サービスの利用希望

① 土曜日・日曜・祝日における保育サービスの利用希望

土曜日における保育サービスの利用希望について見る。「利用する必要はない」（69.8％）が最も多く、「月に１～２回は利用したい」（20.6％）が続いている。また、日曜・祝日においても、「利用する必要はない」（81.1％）が最も多く、「月に１～２回は利用したい」（11.6％）が続いている。

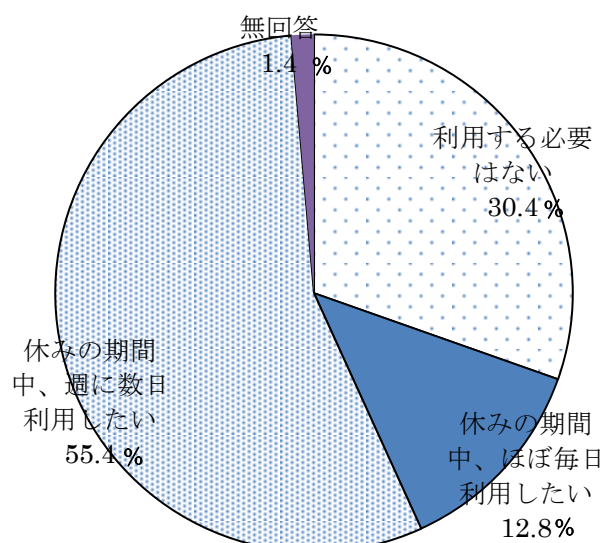


未就学児童（N=768）

② 夏休み・冬休みなど長期休業期間中の教育・保育事業の利用希望（幼稚園利用者）

幼稚園利用者の夏休み・冬休みなど長期休業期間中の教育・保育事業の利用希望について見る。回答の多い順に、「休みの期間中、週に数日利用したい」（55.4％）、「利用する必要はない」（30.4％）、「休みの期間中、ほぼ毎日利用したい」（12.8％）となっている。

＜夏休み・冬休み等長期休業期間中の教育・保育事業の利用意向＞

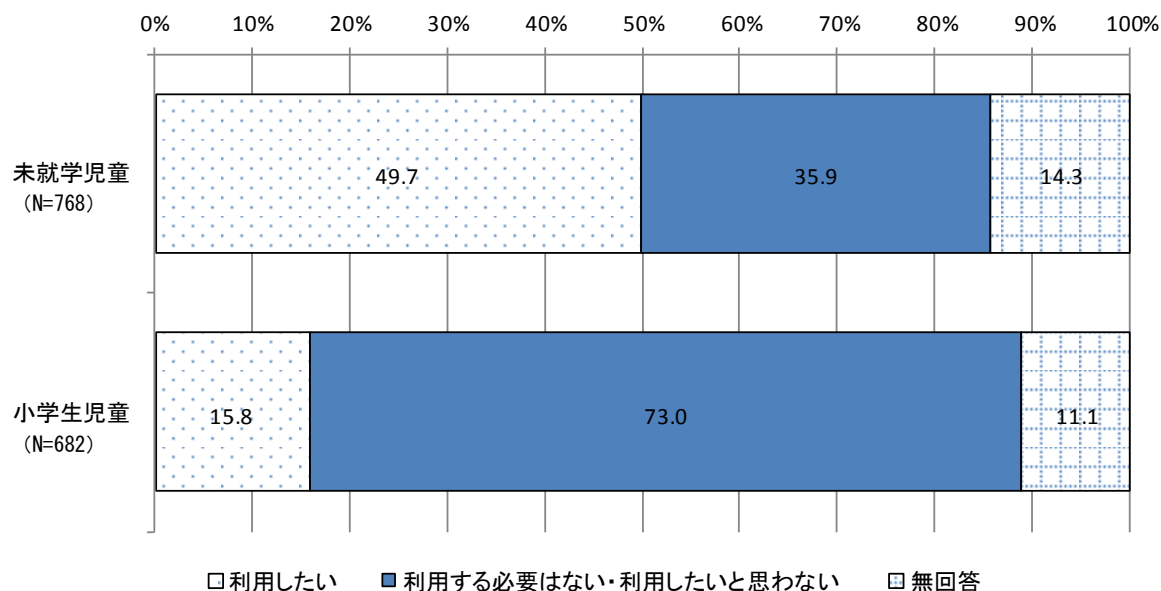


幼稚園を利用している未就学児童保護者（N=148）

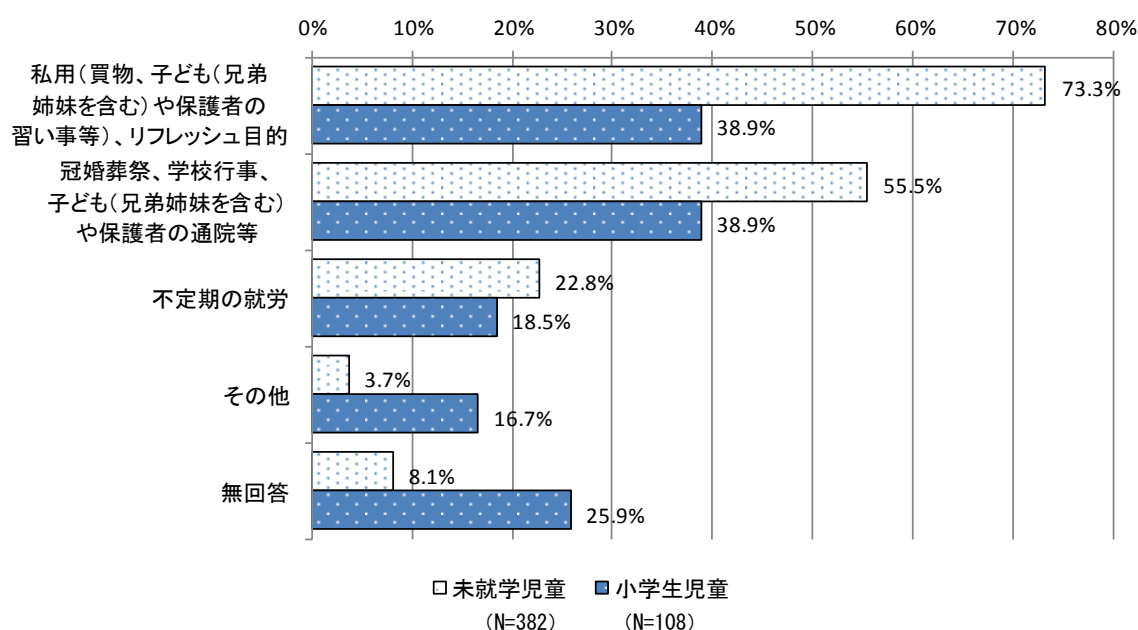
（５）一時預かりサービス等

一時預かりサービスの利用希望について見る。未就学児童については「利用したい」（49.7%）が最も多い。小学生児童については、「利用する必要はない・利用したいと思わない」（73.0%）が最も多い。

＜一時預かり事業の利用意向＞



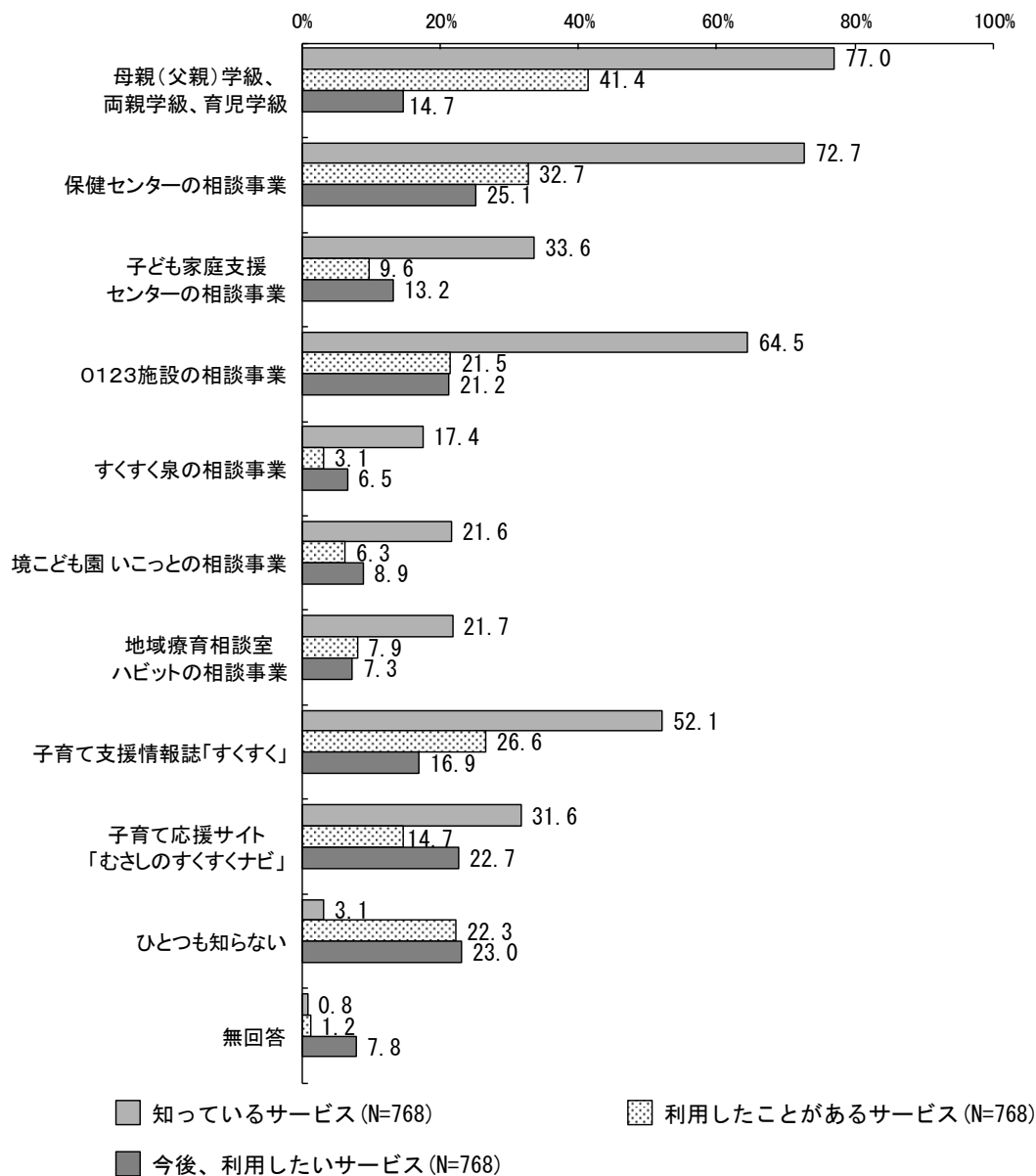
一時預かりサービスの利用用途について見る。未就学児童については「私用、リフレッシュ目的」（73.3%）が最も多い。小学生児童については、「私用、リフレッシュ目的」とともに、「冠婚葬祭、学校行事、子どもや保護者の通院等」（38.9%）が最も多くなっている。



（６）子育て支援サービスの認知度・利用経験・利用希望

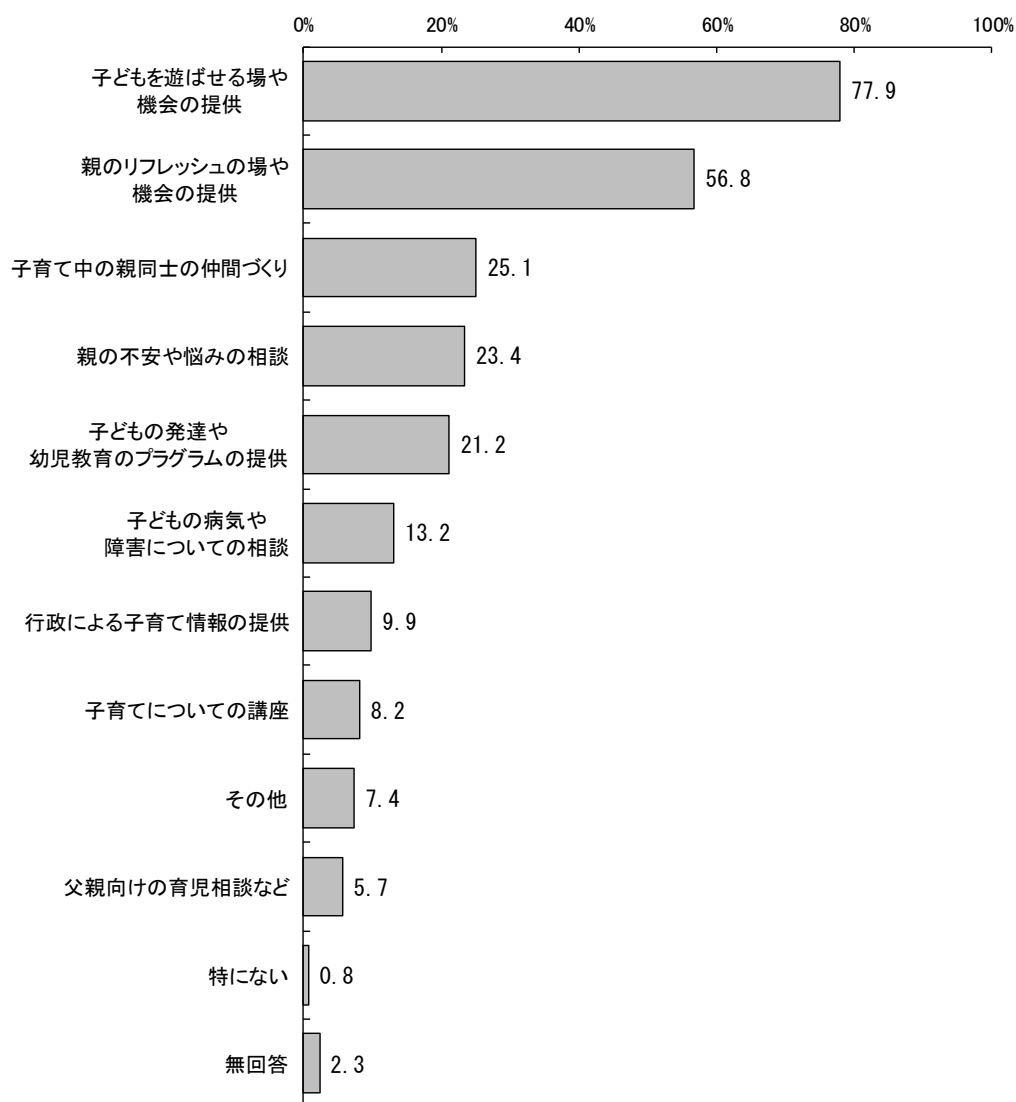
子育て支援サービスの認知度については「母親（父親）学級、両親学級、育児学級」（77.0%）、ついで「保健センターの相談事業」（72.7%）、利用経験については「母親（父親）学級、両親学級、育児学級」（41.4%）、ついで「保健センターの相談事業」（32.7%）、利用希望については「保健センターの相談事業」（25.1%）、「ひとつも知らない」（23.0%）の順が多い。

<認知度・利用経験・利用希望>



(7) 必要なサポートで重要だと思うもの(3つまでの複数回答)

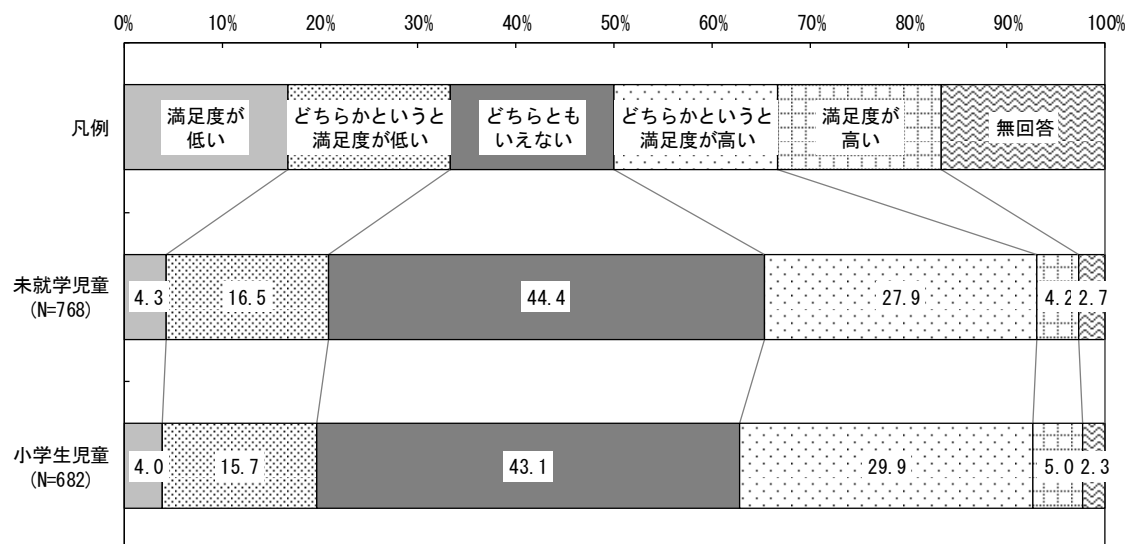
未就学児童の保護者が必要なサポートで重要だと思うものについて見る。「子どもを遊ばせる場や機会の提供」(77.9%)が最も多い。ついで、「親のリフレッシュの場や機会の提供」(56.8%)、「子育て中の親同士の仲間づくり」(25.1%)の順となっている。



未就学児童 (N=768)

（８）市の子育て環境や支援への満足度

市の子育て環境や支援への満足度について見る。未就学児は回答の多い順に、「どちらともいえない」（44.4%）、「どちらかという満足度が高い」（27.9%）、「どちらかという満足度が低い」（16.5%）となっている。小学生児童も同様の傾向にあり、回答の多い順に、「どちらともいえない」（43.1%）、「どちらかという満足度が高い」（29.9%）、「どちらかという満足度が低い」（15.7%）となっている。



担当：子ども家庭部子ども政策課